

## B-19 市販八掛ケ地における絹、合織、シルキー合織の比較検討

緑ヶ丘学園短大 藤井 明

1. 近年、絹の需要の大幅な増加に伴ない、合成繊維のシルキー化が一つの流行となってきた。これは絹特有の持味とされている光沢、風合い等への類似性という形で進展してきたものだが、こういった問題の他に実際に使用した場合には、実用に耐えうるかどうか、あるいは一つ一つの性能について比較してみると、いかなる差異が生じそれが消費者にとって利点となりうるかどうかといった問題が生じてくる。そこで、同一用途を目的として製造された衣服地として、ここでは絹、A社テトロン、B社テトロン、A社シルキー合織、B社シルキー合織からなる各八掛ケ地を選び、その性能について物理的、化学的観点から比較および検討を行なった。

2. 見かけ比重と気孔容積、剛軟性および屈曲剛性率、ドレープ性、強伸度、耐摩耗性、防しわ性、洗剤および酸、アルカリ処理による強伸度と収縮率への影響について実験を行なった。

3. 見かけ比量，気孔容積，防しわ性においては，ほとんど差が見られなかった。顕著な差が現われたのは剛軟性，ドレープ性，強伸度，耐摩耗性，洗剤その他の処理による強伸度，収縮率への影響の各項目であった。なお，試料の繊維鑑別を行なった上で，横断面，比重，糸の太さ，糸密度，織縮み率，布の厚さ等の試料の性質について調査して，実験結果を考察する際の資料とした。